

南陽小読書週間スタート

10月24日(火)から11月17日(金)までが、本校の読書週間(月間)です。

初日には『図書集会』を開いて、全校への取組の周知と読書意欲向上を働きかけました。集会の中では、図書委員の子どもたちによる図書室や有名な物語を題材とした〇×クイズ、多読賞表彰、週間中のイベント告知等があり、読書に向かう気持ちが高まったようです。

さて、報道等では、「子どもたちの読書離れが進んでいる」と時折取り上げられます。データを見ると確かに読んだ冊数や読書の時間が減少しています。では「子どもたちの本への興味関心」が昔と比べて下がっているのかというと、私の印象としてはそうではなく、むしろ高まっていると感じています。

毎年魅力的な新しい本や、人気シリーズの続編が発刊されて、学校の図書室や公共図書館に置かれる。地方自治体も住民の読書環境を整えようと(県・市とも読書活動推進計画策定済み)、学校司書を積極的に配置したり、公共図書館の充実を図ったりしている。(先日偶然に某有名書店と有名コーヒーカフェとの融合で話題となった『武雄市図書館』を建てられた前武雄市長とお会いしました。市民にとっての図書館の重要性を語っておられ、大いに共感しました。)

一方で、自由な時間の過ごし方としては、既存のテレビをはじめ、顧客の獲得にしのぎを削るゲームや動画コンテンツ、SNS等にあてる時間が増えてきています。

つまり、子どもたちが本から離れているのではなく、読書の環境は整ってきたものの、本に触れる機会から離れていると言えます。機会を設けるのは大人の役割であり、学校では教員が、家庭では保護者の皆様が行うことになります。デジタルメディアの休みの日を決めて家族一斉読書をする、一緒に本屋・図書館に行って本を選ぶ、親が選んだ絵本を読み語る等は、お勧めです。

図書集会の画像はこちら ⇒ [図書集会の様子 | 長崎市立南陽小学校 \(nagasaki-city.ed.jp\)](https://nagasaki-city.ed.jp)



ペーパーティーチャーセミナーのご案内

学校現場が人手不足であることは最近報道でよく取り上げられます。昨年度の学校だよりでは、保育・教育現場で勤務されたことのある方は「ぜひ臨時的任用の登録を」と、呼びかけをしました。今年度も状況は同じで、長期の休暇取得者の代替が見つからず、結局教員の持ち授業数を増やして対応することが起こっています。

県教育委員会は、登録者を増やすために、標記のセミナーを開催します。期日は令和5年12月3日(日)、場所は長崎県庁、対象者は、「教員免許はあるが全く教職経験のない方」、「教職経験はあるものの離職した方」、「教職免許期限超過により失効している方」、「教員の仕事に興味のある方」です。保護者・地域の皆様で対象の方や、お知り合いに対象になる方がいらっしゃる場合は、本セミナーに参加されて登録を検討いただければ幸いです。詳しくは、[ペーパーティーチャーセミナー](#)で検索するか、長崎県教育庁義務教育課人事班(Tel894-3376)へお問い合わせください。



4年生親子レクリエーション実施

親も子ども楽しめるレクリエーションにしようと役員さんが企画し、長崎亭キヨちゃんぽんさんをゲストティーチャーにお招きして「漫オワークショップ」を行いました。キヨちゃんぽんさんの軽妙なトークと子どもたちの積極的なリアクション、お題を基に考えた子どもたちと保護者のネタ発表、最後には、南陽小の先輩であるキヨちゃんぽんさんの芸歴20周年のお祝いとして子どもたちからのサプライズプレゼントもあり、笑いが絶えないハートフルな時間でした。画像はこちら ⇒ <https://onl.sc/6jEsUY6>